

## 令和4年度(2022年度)第1回豊中市社会教育委員会議 議事概要

- 日時：令和4年(2022年)11月16日(水)18時～19時30分
- 会場：第一庁舎2階大会議室
- 出席者：秋山、有元、井川、佐藤、寺嶋、中川、濱元(50音順)
- 傍聴者：なし
- 事務局：事務局長小野、中央公民館長 弘中、読書振興課長 須藤、学び育ち支援課長 岡本、主幹 津田、副主幹 金井、社会教育課長 大澤、郷土資料館長 清水、課長補佐 荒井、青少年交流文化館いぶき館長 久住、副主幹 島津、主査 田井

### 【会議次第】

1. 開会
2. 案件
  - (1) 議長・副議長の選出
  - (2) 豊中市の社会教育のあり方について
3. その他
4. 閉会

### 【資料】

次第

別紙1：社会教育委員名簿

別紙2：豊中市社会教育委員条例、豊中市社会教育委員条例施行規則

資料1：豊中市の社会教育のあり方について(素案)

資料2：本市社会教育のめざす方向性基本コンセプトをあらわすキャッチフレーズ案

資料3：本市社会教育のめざす方向性基本コンセプトイメージ図案

資料4(当日配布)：豊中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書 令和3年度(2021年度)実施分より一抜粋—令和4年度(2022年度)教育行政方針より抜粋、青少年交流文化館いぶき Twitter の案内、豊中市立郷土資料館リーフレット

### 議事概要

#### 1. 開 会

#### 2. 案 件

- (1) 議長・副議長の選出

委員の互選により、議長に濱元委員、副議長に中川委員を選出した。

## (2) 豊中市の社会教育のあり方について

資料1～4を事務局より説明

議長：学校教育は子どもがいる限りまわっていくが、社会教育は施設の活動を基盤とした地域づくりやコミュニティ活動、またそれを育んでいこうという市の姿勢や方針がなければどんどん廃れていく。行政がしっかりとビジョンを作っていかなければならない。

委員：しっかりと進めてほしい。現状を明確におさえなければ、課題解決も正しい方向に進まない。コロナによって地域活動が停滞というか、ほぼ崩壊したという現状を明確に入れてほしい。また、自治会加入率の激減もなかなか歯止めをかけられない。そして20年以上前から進んでいない男女共同参画の問題もある。自分自身、公民分館を経験する中で分館長のほとんどが男性という現状。30%の基準を満たし、ジェンダーの問題を見つめ直してほしい。

委員：社会はすごく変化している。豊中市における社会教育の概念を定義づけることが前提である。また、担い手不足は豊中市だけの課題ではない。他市のあり方も参考にしてほしい。

議長：基本コンセプトのキャッチフレーズ「人づくり地域づくり」のところが良いと感じた。それぞれの学びが繋がって、コミュニティがどんどん発展していくイメージ。コミュニティとは、人と人との出会い・学び合いのこと。学び、楽しみ、ネットワークが広がっていくと地域社会が豊かになる。例えば、南桜塚小学校の社会福祉協議会では朝ごはんの取り組みがあり、学校との繋がりができて地域の人と一緒に子どもを支えている。活動が広がれば、そこに関わる人も増えていくことになる。

委員：自分自身もそうだが、実際に活動している人は、意外と社会教育というイメージを持っていない。図書館の読み聞かせボランティア「おはなしポケット」の活動がこの中に入っているのだということも初めて認識した。自分の立ち位置を意外と理解していない。世の中は尚更一般化されていない。ここ2～3年はコロナで活動の制限もあった。学校も地域の人にも臆病になっていた。やはり活動をもっと皆に知ってほしいし、地域の人にもっと広まれば、やっている側も意識が高まる。

議長：色んな地域活動がある中でも情報がうまく循環していなかったりする。

委員：方向性の「(6) 個別で取り組まれてきた活動を元に、市全体としての社会教育のあり方を考える必要がある。」の部分がすごく良いと思う。俯瞰して見る視点は重要。全体として見るネットワークがあれば良い。

議 長：それぞれの活動を見ていくのではなく、全体として捉える俯瞰の視点  
は大切。同じく方向性の「(2) 生まれた地域に戻り、地域のために貢献  
したいと感じる思いを育む。」の部分についてだが、子どもが色々な大  
人と出会うことでこの地域は良いなと思うようになるので非常に大切。

委 員：学校教育の中では、総合学習の授業で地域のリソースを充分活用して  
いる。お互いにとって良い学びになっている。そういう結果は数字にも  
表れていて、地域の活動をたくさんしている学校だと子どもたちは満  
足感も高く、自分も地域の中で貢献したいと感じるという結果が出て  
いる。また、「社会教育」の概念については、明確化してほしい。「学校  
教育」との違いをはっきり示してほしい。資料 3 のイメージ図を見て  
いると、「図書館」「公民館」は分かるが、「人権協」と書かれても分か  
らないので、正式名称で書いてほしい。また、括りも分かりやすく整理  
してほしい。それぞれがどういう組織なのか、どこが主体でどんな運営  
をしているのか、分かりやすい形で挙げてくれたら、「こういう団体が  
学校教育に貢献してくれているのだな」と実感することができる。

議 長：委員の言う調査については、私も研究している。子どもが地域の色々  
な大人と繋がり、たくさんの人に見守られながら育つ環境は大切。自己  
肯定感が育まれる。また「人材育成」については、やはり一番大きな課  
題。学校コーディネーターなど地域の連携・調整役を担ってくれる人の  
育成というのは非常に難しい。社会教育を活性化する上で、地域組織を  
基盤にした市独自のコーディネーター養成プログラムなどがあれば。  
以前、そういった地域人材を育成する市の大学のようなものの設立企  
画があったが、どうなったのか？

事務局：とよなか地域創生塾は、現在市長部局で実施している。毎年 20 名ほど  
の塾生がおり、現在 6 期生。参加する人は「子ども食堂をやりたい」  
「高齢者の手助けがしたい」など、それぞれ想いを持っているがどう活  
動したらいいのか分からないという人が参加する。1 年間かけて企画書  
の作り方や地域課題の見つけ方、仲間づくりなどについて学び、地域に  
出ていく。卒業したら自分たちで実際にイベントをやったり、コミュニ  
ティ政策課の「とよなか夢基金」などを活用して活動しているという印  
象。

議 長：教育分野との連携はないのか？人づくり地域づくりという観点ではす  
ごくマッチすると思うが。

委 員：おそらくそれは、参加者の主体性に掛かっているのだと思う。学んだ  
中で、自ら何か企画する人もいるし、既存の団体に自分のタイミングで  
参加をしていく人もいる。その参加者に「社会教育分野としてはこのよ

うな活動場所がありますよ」という形で情報提供がうまくできれば連携していけると思う。

委員：卒業した証になる研修証明とか資格のようなものはないのか。

事務局：特に資格がある訳ではないが、修了証は授与される。とよなか地域創生塾にはこれまでの過去5年間で100人以上の卒塾生がいて、卒業生のメーリングリストがあり、それぞれが「私は●期生です。」などと言って繋がったり、開催するイベントの情報交換などをしたりして交流している。

委員：そういう人たちが今後地域で活躍してくれたらとても良い。

議長：そういった人たちが学んだ新しい視点で公民分館やコミュニティスクールといった活動の担い手となってくれたら、より持続可能なコミュニティづくりになるので活用していければ良い。

委員：PTAの活動がなくなっている訳ではないが、何か行事をやるにしても情報が伝わらなかつたりする。若い人にもっと協力してもらいたいが難しい。仕事をしている保護者も多い。もっと人を引っ張るのにはどうしたらいいのか悩んでいる。ホームページなどの情報発信をもっと頑張るべきか。

議長：共働き世代が増えている中で、PTA活動をはじめとした社会教育活動が「楽しい」ものだという認識が薄くなっていると感じる。

委員：全体の方向性を打ち出していくのは大事なこと。活動している地域の皆さんは目の前のことにやりがいを感じて取り組んでいるが改めて立ち止まって「これってこういうことなんだよ」と伝えていくのは大切。人材育成は福祉の分野でも重要で、受け入れ方を変えていかないと行けない。「何かやりたい」という人は地域にたくさんいる。教育や福祉、いろんな分野や垣根を越えていければ良いと思う。

議長：思いがあっても時間がなくて参加できないこともあるから、参加の形態が変わっていけば良い。福祉とも繋がっていることだが、生きづらさを感じていたり孤立していたり、経済的に困窮していたり障害のある方のご家族や外国にルーツのある方など、色々な事情で社会活動への参加に課題のある人がいる。高槻市は「ひとりぼっちにしないまちづくり」を設定しており、こういった福祉の分野とも繋がった社会教育のビジョンは大切。

委員：公民分館も福祉もそれぞれ活動をしているが、地域の中でもなかなか横の繋がりが無い。南桜塚地域には7~8年前に立ち上げた連絡協議会があり、そこに入っている人とは繋がりがあがるが、他はない。PTAはポイントを導入しているようだし、今の世の中は色々な人の新しい考

え方を入れながらやっていかないといけない。団体同士が意見交換をしていけば、より活性化するのではないか。

議長：地域の中では色々な活動が行われているが、横のつながりが意外と少ない部分もある。

委員：自分は校長を数校しか経験していないが、従来どおりのやり方は難しい。ただ、PTAについては、前例踏襲ではなく自分たちがやりたいことをやっていると案外斬新な楽しい取り組みになっていたりする。これまでどおりのPTAから公民分館に、という流れは厳しい。NPOの若い人が元気に活動している。明確な意思を持って積極的に活動している。

議長：NPOはノウハウもあるし、社会教育活動においてもNPOなどの団体と繋がりながら地域づくりができれば良いと思う。高槻市はコミュニティセンターを核として地域の自治会やPTAと繋がりがある。少しずつ地域の中で担い手を輩出する仕組みができており、うまくいっている。歴史的な背景もあるのですぐに真似をして取り入れられるものではないが、そういった他市の人材育成や活性化している社会活動のあり方を調査して学んでほしい。

副議長：公民分館では毎年研修会として他市の見学に行っている、全国公民分館大会もあり、色々な分科会があって切磋琢磨している。

議長：同規模の中核市は是非参考にしてほしい。今回は中心的なコンセプトが共有できたと思う。学校教育や福祉など垣根を越えて今後も広がっていけば良い。

### 3. その他

- ・青少年交流文化館いぶき館長より、いぶき Twitter について案内
- ・郷土資料館長より、豊中市立郷土資料館について案内

### 4. 閉 会

以上